## ○厚生労働省告示第六十四号

法第百四十九条において準用する場合を含む。)、国民健康保険法 健 康保険法 (大正十一年法律第七十号) 第八十五条第二項及び第八十五条の二第二項 (これらの規定を同 (昭和三十三年法律第百九十二号)

十二条第二項及び第五十二条の二第二項(これらの規定を同法第五十四条第四項において準用する場合を含

む。 並び に 高齢者  $\mathcal{O}$ 医療の確保に関する法律 昭 和 五十七年法律第八十号)第七十四条第二項及び第七十

五条第二項 (これらの規定を同法第七十七条第四 |項にお いて準 用する場合を含む。) の規定に基づき、 健 康

保険 担額及び生活療養標準負担額の一部を改正する告示を次のように定める。 及び国民 健康保険 の食事 療養標準負担額及び生活療養標準 負担額及び後期高齢者医療の 食事療養標準

令和七年三月二十四日

厚生労働大臣 福岡 資麿

健康保険及び 国民健 康保険の食事 療養標準負担 .額及び生活療養標準負担額及び後期高齢者医療の食事

療養標準負担額及び生活療養標準負担額の一部を改正する告示

、健康保険及び国民健康保険の食事療養標準負担額及び生活療養標準 負担額の一 部改正)

負

二百三号)の一部を次の表のように改正する。

$\overline{}$
傍
線
部
分
は
改
正
部
分
$\overline{}$

しくは第二号(国民健康保険法施行規則(昭和日本)第十条の六の三の規則(昭和日本)第二十六条の六の三の規則(昭和日本)第一号若しくは第二号(国民健康保険法施行令(昭和日本)を表を含む。)第十条の六の三の規則では第二号(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法施行令(国民健康保険法)	世康保険の食事療養標準負担額は、次の表の上欄に掲げる者のの食事療養標準負担額は、次の表の上欄に掲げる者のの食事療養標準負担額は、三食に相当する額を限度とする。なお、一日の食事療養標準負担額は、三食に相当する額を限度とする。なお、一日の食事療養標準負担額は、三食に相当する額を限度とする。なお、一日の食事療養標準負担額は、三食に相当する額を限度とする。なお、一日の食事療養標準負担額は、次の表の上欄に掲げる者の又は第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 十二月以内の入院日数(フは第二号 100 を 1
しくは第二号(国民健康保険法施行規則(昭和日本)第十三年厚生省令第五十一号若しくは第二号(国民健康保険法施行規則(昭和日、10年の一号若しくは第二号の三の規制の一号若しくは第二号の三の規制を表別を含む。)第十条の六の三の規制を指針の大人は第二号の三の大人の三の規制を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	□ と

食につき 百九 十円	二申則下い以算期第第百成関は号五二三共含に第行私三ホ条政月請第のて下し間一一二十寸高ホ第号十済むお四令立号、の令以を百者同こたに号号十九る齢若一)七組。い百(学ホ第三第
	施行令(昭和三十)、国家公務員共済に

る規以お。合る条条第平に又二の十和等を条令施を第号一年合号申則下い以算期第第百成関は号五二三共含に第行私三ホ条政法ホ 三 未 条 政 施 、 二 号 、 の 令 施 、 二 ーーニ+す 以を百者同こたに号号十九る齢若一 内行 五. 0 つ 条 入た月規 日以定 数前に がのよ 食に つき百八 +

<u> </u>	I)を算定する保険医療基準の入院時生活療養(	第六十	一食につき五百十円との一日につき三百七十円と	二条の三第 Ⅰ)を算定する保険医療規則第六十 基準の入院時生活療養 (
(略)		(略)	(略)	(略)
		<b>の</b>		<i>の</i>
の合計額	又は第二号に該当するも	第一号	の合計額	同条第一号又は第二号に該当するも
一食につき二百三十円	る者以外の者であって、	該当す	一食につき二百四十円と	号に該当する者以外の者であって、
		規則第六十	一日につき三百七十円と	規則第六十二条の三第四号又は第五
の合計額	機関に入院している者		の合計額	機関に入院している者
一食につき四百五十円	する保		一食につき四百七十円と	Ⅱ)を算定する保険医療
一日につき三百七十円	基準の入院時生活療養(		一日につき三百七十円と	基準の入院時生活療養(
	いる者			いる者
	保険医療機関に入院して			保険医療機関に入院して
	療養(Ⅰ)			活療養(Ⅰ)を算定する
	」という。)の入院時生			」という。)の入院時生
	下この項において「基準			下この項において「基準
	働省告示第九十九号。以			働省告示第九十九号。以
	準(平成十八年厚	者		者 基準(平成十八年厚生労
	費用の額の算定に関する	る者以外の		る者以外の 費用の額の算定に関する
の合計額	療	号に該当す	合計額	生活療養
一食につき四百九十円	食事療養及び入院時生活	二条の三各	一食につき五百十円との	条の三各  食事療養及び入院時生活
一日につき三百七十円	入院時食事療養費に係る	規則第六十	一日につき三百七十円と	規則第六十 入院時食事療養費に係る
額	分	区	額	区分
	額を限度とする。	に相当する質		に相当する額を限度とする。
の提供に係るものの額は、	準負担額のうち食事	の生活療	供に係るものの額	療養標
掲げる額とする。なお、	それぞれ同表の下欄	<ul><li>区分に応じ、</li></ul>	、げる額とする。なお、一日	区分に応じ、それぞれ同表の下欄に掲
次の表の上欄に掲げる	の生活療養標準負担額は、	二 健康保険	次の表の上欄に掲げる者の	健康保険の生活療養標準負担額は、
	でに該当しないもの	ら第三号まで		ら第三号までに該当しないもの
	であって、同条第一号か	る者		る者であって、同条第一号
_	八条第四号又は第五号に	規則第五十	一食につき三百円	規則第五十八条第四号又は第五号に
(略)		(略)	(略)	
	九十日を超える者			九十日を超える者

三・四(略)	(略)	当するもの 九十日を超える者	第二号に該 十二月以内の入院日数が	第一号又は る申請を行った月以前の (	って、同条 規則第百五条の規定によ	する者であ 九十日以下の者	五号に該当 十二月以内の入院日数が   短	の三第 る申請を行った月以前の	規則第六十規則第百五条の規定によ	号まで又は第六号に該当しないもの	る者であって、同条第一号から第三	規則第六十二条の三第五号に該当す	(略)	当するもの 九十日を超える者	第二号に該 十二月以内の入院日数が へ	月以前	って、同条   規則第百五条の規定によ	する者であ 九十日以下の者	四号に該当十二月以内の入院日数がの	二条の三第   る申請を行った月以前の	規則第六十 規則第百五条の規定によ	いもの	に該当しな	又は第六号	第三号まで	している者	て、同条 Ⅱ)を算定する保険	する者であ  基準の入院時生活療養(  四号に該当  機関に入院している者   ^
	(略)			つき百九十円との合計額	一日につき零円と一食に		<b></b>	つき二百四十円との合計	一日につき零円と一食に		つき三百円との合計額	一日につき零円と一食に	(略)		合計額	一食につき百九十円との	一日につき三百七十円と		の合計額	一食につき二百四十円と	一日につき三百七十円と					の合計額	につき四百七十円	一日につき三百七十円と合計額
三・四(略)	(略)	当するもの一九十日を超える者	第二号に該 十二月以内の入院日数が	請を行	条 規則第百五	する者であ 九十日以下の者	五号に該当  十二月以内の入院日数が	二条の三第 る申請を行った月以前の	規則第六十  規則第百五条の規定によ	号まで又は第六号に該当しないもの	る者であって、同条第一号から第三	規則第六十二条の三第五号に該当す	(略)	当するもの 九十日を超える者	第二号に該 十二月以内の入院日数が	第一号又は る申請を行った月以前の	って、同条  規則第百五条の規定によ	する者であ 九十日以下の者	四号に該当  十二月以内の入院日数が	った月以前	規則第六十  規則第百五条の規定によ	いもの	に該当しな	又は第六号	第三号まで	第一号から 機関に入院している者	て、同条Ⅱ	する者であ   基準の入院時生活療養 (   四号に該当   機関に入院している者
	(略)			つき百八十円との合計額	_		額	つき二百三十円との	一日につ	額	つき二百八	_	(略)		合	一食につき百八	_		の合計額	_	一日につき三百						一食につき四百五十円と	

(後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額の一部改正)

九十五号)の一部を次の表のように改正する。

第二条 後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額(平成十九年厚生労働省告示第三百

五条第一号 被保険者番号(高齢者を) 一号 被保険者番号 (高齢者を) 第一項に規定する被保 (昭和五十七年法律第 における特定の個人番号 (行政手 ) 第二条第五項に規定する被保 第二条第五項に規定する被保 (1) 第二条第五項に規定する被保 (1) 第二条第五項に規定する (1) 次 (1)	関第三十 次欄に掲げる者以外 を期高齢者医療の食事療養標: 者の区分に応じ、それぞれ同: 一日の食事療養標準負担額は、 一日の食事療養標準
第年険並す号成利を手氏保の第法者五内法びる)二用識続名険二八律の食につき百九十円	本
五条第一号 被保険者番号(高齢者のに該当する 医療の確保に関する法律 (昭和五十七年法律第八 ) の番号の利用 で、	関第三十 次欄に掲げる者以外の者 と関係を表表に該当する者以外の者 が表示して、それぞれ同表の下 を対して、それぞれ同表の下 が表示の医療の確保に関する法律施 が表示が、それぞれ同表の下 が表示が、それぞれ同表の下 が表示が、とれぞれ同表の下 が表示が、とれぞれ同表の下 が表示が、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれ同表の下 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者以外の者 がままが、とれぞれに関する者は、これで、とれぞれに関する。 は、これで、とれぞれに関する。 は、これで、とれぞれに関する。 は、いる、とれぞれに関する。 は、いる、とれぞれに関する。 は、いる、とれぞれに関する。 は、いる、とれぞれに関する。 は、いる、とれぞれが、とれぞれが、とれが、とれが、とれが、とれが、とれが、とれが、とれが、とれが、とれが、と
一 食 に つ き 百 八 十	- 食につき二百三十円 - 食につき四百九十円 - 食につき四百九十円 - 食につき四百九十円

(傍線部分は改正部分)

改

正

前

改

正

後

二昭校( 二の二令家ホ第令施をみの険く六合読十生行二 、進十和教こ号六百(公若一第行含替六法は十をみ六省 し項ニ 令施地用五二職れホ第七昭務 令むえの施第二 含替条令則 第行方す号十員ら若一号和員く第百(三令公る)八共のし項)三共は一四昭 二条むえの第一国 て三行 二五昭民 7 適の十和健号 組三ホ号二船さ定第国第君用規三三康若合号、十員れに二民一に定号十保 和等を条令施を第号一年合号 。い百~学ホ第三第行国号条政法合読条保し第場り二厚施第

二の二令家ホ第令施をみの険く六合読十生行 昭 校 、 準 十 和 教 し項ニ 令むえの施第 令施地用五 二職れホ第七昭務 含 替 条令則( 行方す号十員ら若一号和員く第百(令公る)八共のし項)三共は一四昭 て 三 行 一通の規号の 五昭民 て 第号十済むお四令立号、の令施 。い百~学ホ第三第行国号条政法合読条保し第場り二厚施第

規則第四十人院時	、三食に相当する額	、一日の生活療養標準	る者の区分に応じ、	二 後期高齢者医療の	該当しないもの	であって、同条第	規則第三十五条第一	(略)	るもの	入院日	月以	、入院	者」と	て「入す	提出し、	期高齢	する書	) に、 に、 に	入院日	号 及	を記載	び次号	をい	院日数を	る者で、	は第四・	第三十	しくは	項第一
入院時食事療養費に係る分	を限度	負担額のうち食	それぞれ同表の下欄	生活療養標準負担		一号又は第二号に	三号に該当する者			数が九十日を超え	前の十二月以内の	日数届書を提出し	いう。)であって	院日数届出被保険	た者(次号におい	者医療広域連合に	類を添付して、後	院日数を	数届書」という。	び次号において「	した届書(以下こ	において同じ。)	う。以下この号及	合算した入	ある期間に係る入	一号に	五条第一号若しく	第三号ホ又は規則	号亦、第二号亦若
一日につき三百七十円と	STITE /	事の提供に係るものの額は	欄に掲げる額とする。なお	額は、次の表の上欄に掲げ			一食につき三百円	(略)																					
規則第四十入	、三食に相当す	、一日の生活	る者の区分に	二 後期高齢者	該当しないも	同	第三十五	(略)	ス	入	to	`	<b>坐</b>	て	坦	邯	士	<u> </u>	7	<i>D</i>	<u>た</u>	アド	粉	贮		は	笋	1	佰
八院時食事療養費に係る分	度	負担額の	応じ、それぞれ同表の	医療の生活療養標準負	0	条第一	五条第三号に該当する者		るもの	院日数が九十日を超	月以前の十二月以内	入院日数届書を提	4」という。) であって	「入院日数届出被	出した者(次号に	河高齢者医療広域連合に	る書類を添付して	に、当該入院日数	院日	の号及び次号において	記載	5次号において同じ。)	をいう。	日数を合算した	る者である期間に係る入	第四十条第一号に定	三十	くは第三号ホ又は	第一号ホ、第二号ホ
係る	る。	うち食	下欄	担		(_	1			え	$\mathcal{O}$	U	(	PC	٧	1	仅	ΡШ		$\neg$	J		汉	Д	八	め	\		

該当する 提出した月以前の十二月 合条第一号 あって、入院日数届出被保険者で 一あって、	該当する者   の合   一食	第四四	しないもの	テンタ	・・こま ら第三号 機関に入院している者   の	条第一号 Ⅱ)を算定する保険医療 一	養(	する者  機関に入院している者	号に I)を算定する保険医療	基準の入院時生活療養(一	(略) (略	一号に該当するものの	る者以外の者であって、同条第一	規則第四十条第四号又は第五号に該   一日	ている	険	基準の入院時生活療養( 一日	入院している者	定する保険医療機関	入院時生活療養(Ⅰ)を	下「基準」という。)の	九十九号。	(平成十八年厚生	外の者 費用の額の算定に関する	療養費に係る生活療養	条各号に該 食事療養及び入院時生活  一食
額 につき百九十円との 同条 につき三百七十円と	計額	につき三百七十円と 規則	したが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	子 て こ 又	ら第	き四百七十円と 同条	日につき三百七十円と であっ	す	つき五百十円との 条第四	日につき三百七十円と 規則第	11) (略)	一号に	食につき二百四十円と 当する	1につき三百七十円と   規則第	口計額	成につき四百七十円と	1につき三百七十円と								- 類   当する	成につき五百十円との    条各号
る 提出した月以前の十二月号 あって、入院日数届出被保険者で、	る者	四	もの当	亥は	三号 機関に入院している	一号 Ⅱ)を算定する保	<b>沽療養</b> (	る者 機関に入院している者	号に Ⅰ)を算定する保険医療	四十 基準の入院時生活療養(		該当するもの	って、同条	四十条第四	関に入院して	算定する	準の入院時生活療養	してい	定する保	時生活	「基準」	告示常	基準(平成十八年厚生労	の額の	者以 療養費に反	に該 食事療養な
合一一計食日	の合計額一食につき二百三十	一日につき三百七十			の合計額	食に	十六四川@く行甲一	の合計額	一食につき四百九十	_	(略)	の合計額	一食につき二百三十	一日につき三百七十	の合計額	一食につき四百五十	十六四川@くお甲一								の合計額	一食につき四百九十円

(略)			もの	に該当	同条第	であっ	該当せ	条第五	規則第	又は第	あって	規則第	(略)		ŧ.
	を超えるもの	以内の入院日数が九	提出した月以前の十	当する あって、入院日数届	第一号 入院日数届出被保険	って、	する者	五号に	第四十 次欄に掲げる者以外	第六号に該当しないもの	て、同条第一号から第三号まで	第四十条第五号に該当する者で		を超えるもの	
(略)		十月	二月	書を つき百九十円との合計額	者で 一日につき零円と一食に		額	つき二百四十円との合計	の者一日につき零円と一食に		まで一つき三百円との合計額	者で 一日につき零円と一食に	(略)		ナ <b>ー</b>
				HZN	,,			ΡΙ	, _						
(略)			もの	に該当する	同条第一号	であって、	該当する者	条第五号に	規則第四十	又は第六号	あって、同	規則第四十	(略)		ŧ
	を超えるもの	以内の入院日数が九十日	提出した月以前の十二月	あって、入院日数届書を	入院日数届出被保険者で				次欄に掲げる者以外の者	に該当しないもの	条第一号から第三号まで つき二百八十円との合計	条第五号に該当する者で		を超えるもの	ジ グ の フ 防 日
(略)				つき百八十円との合計	一日につき零円と一食に		額	つき二百三十円との合計	一日につき零円と一食に	額	つき二百八十円との	一日につき零円と一食に	(略)		

(適用期日)

(経過措置)

る。

(圣岛皆畳)この告示は、令和七年四月一日から適用する。

1

2 この告示の適用の日前の食事療養標準負担額又は生活療養標準負担額については、 なお従前の例によ

- 13 -